

なぞときキャンプ  
ホビット団シリーズ②

ストーリー紹介ページ



## ホビット団の挑戦 - エラポスの涙 -

2014 fall  
11/1(土)~3(月・祝)

ホビット団  
レンジャー隊  
募集中!

= ホビット団指令本部 =

### ストーリー

※この物語はフィクションです。

#### 【プロローグ①】

世界中の「おたから」を探しだして、  
安全に保護することを目的に活動している「ホビ  
ット団」。

前回、「安芸の宮島」にて謎を解決した活躍が認  
められ、次の指令が…

なんと、今回の舞台も「安芸の宮島」だ！

調査部部長のグリフィンと言う。

『宮島と言えば君らだろ?』

調査レンジャー隊小隊長も続く。

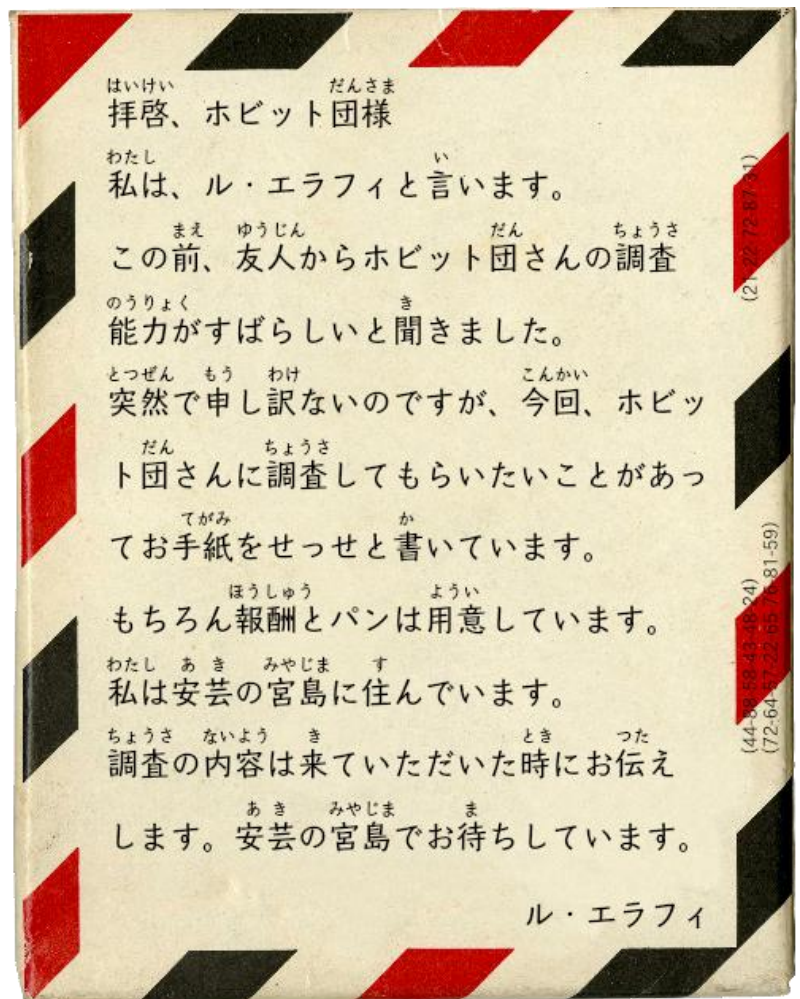
『サクッと解決して、ついでに宮島観光でもしよ  
う! あげもみじ食べたいな。』

今回の調査任務は、ホビット団に届いた一通の依  
頼の手紙(右の手紙参照)

『どうやら簡単な調査依頼のようだ。まず依頼者  
に会って話を聞こう! 手紙の感じだと依頼者は女  
の人だね。』

『じゃ、サクッと行こっか! まず、依頼者に会い  
に宮島へ! サクッとね!』

と、小隊長は言い残して、先行調査のため、隊本部を後にしたのだった…





## 【プロローグ②】

小隊長が先行調査に出てから1ヶ月…

ホビット団本部は3週間前から小隊長と連絡が取れなくなっていた。

グリフィンはあせっていた。『まだ、小隊長から連絡はこないのか！』

Lineが趣味で、毎日のようにくだらないスタンプを押してくる小隊長の性格を考えると、3週間も連絡が取れない状況は間違いなく小隊長の身に「なにか」が起こっていることを示していた。

『もう待てん！！』

調査部部長のグリフィンは、小隊長の搜索を指示した。

手がかりは…「ル・エラフィからの手紙」と「小隊長から届いた手紙」だ。

『必ずや小隊長を助け出せ！』

選べれし、ホビット団レンジャー隊諸君！君たちが頼りだ。頼んだぞ！！



## 【 i 】

ホビット団本部より、レンジャーたちへ「指令書」が渡された。

- 安芸の宮島へ行き「ル・エラフィ」なる人物を探し出せ！
- どうやら今回、インターポールも宮島で作戦を展開している模様。口うるさいインターポールに見つかると調査の進行が遅れてしまう。インターポールになるべく見つからないように行動せよ！



用心深い「エラフィさん」に会うには、謎を解かなければ会えないぞ！

インターポールにも注意せよ！



なんとか、エラフィさんの家へ到着！



【 ii 】

ようやくエラフィさんまでたどり着いたレンジャー隊。

アレ？ エラフィさんは男？？

分隊長はエラフィさんに問い詰める。

「小隊長は！小隊長はどこに！？」

『会っていないぞ』とエラフィ。

続けて『やはり… ところで君たちは“私の手紙に隠された暗号”は解いたのか？』と言う。

始めに届いたエラフィさんの手紙をよく見てみると、右端に謎の数字が！？

暗号を解くと、「スパイがいる」、「女は偽物」、「本物は男」

驚愕する分隊長始め、レンジャー隊一同。

エラフィさんは言う。

『私は死んだおじいさんから“エラポスを守れ”と言われた。しかし“エラポス”が一体なんのことか私にはさっぱり分からず、今回君たちに調査を依頼したのだが… どうやら、この“エラポス”を狙っている奴らがいるらしいんだ』

『私は最近、誰かにあとをつけられたり、電話が盗聴されたりしていることに気がついたんだ』

『今回、用心には用心をこして、暗号付きの手紙にしたんだが… これでハッキリした！ スパイはホビット団の中にいる！』

小隊長の行方を追うには「スパイを発見」することが重要だ。

明日はエラフィさんが調べた「スパイの正体を知っている情報屋」を探しに街へ！



【 iii 】

その夜、翌日の情報屋探しの作戦会議をしている最中、

突然、作戦本部に「謎の手紙」が投げ込まれた！

『エラポスノ ヒミツヲ オシエテヤロウ ワタシノナゾヲ トイテミヨ』

謎の挑戦状に隊員たちは夜の森に繰り出した…

暗号を解くと「エラポス」は「鹿」であることが分かったのだった。



【 iv 】

翌日、情報屋を探すために街へ。

途中、突然ホビット団本部より連絡が入る。

「I-9 地点に、不審な反応有り。至急調査せよ！」

情報屋探しを一時中断し、反応のあった場所へ！



反応のあった場所で、新たな「小隊長からの手紙」を発見！

しかし、手紙は暗号化されており、この時点では解けそうにない。



【 v 】

なんとか情報屋までたどりついたレンジャー隊。

情報屋から「スパイの手がかり」を入手し、作戦本部の置かれているエラフィさんの家へ。

それぞれ持ちかえった「手がかり」を元に解読にかかる。

さらに、「小隊長からの手紙」も同時に解読だ！



【 vi 】

スパイが分かったレンジャー隊一同は、すぐにホビット団本部に連絡。

しばらくして、本部から「捕まえた」との連絡が入った。

これから本部で「小隊長の居場所」の事情聴取をするようだ。

更に昼に見つけた、新たな「小隊長からの手紙」を解読すると…

「偽エラフィが島の人をだまして、エラポスを海外に売ろうとしている」ことが分かり、島からエラポスを乗せた船が出るのは、「明日の昼」と言うことが分かった。



また、小隊長の手紙から、

「エラフィのお家」は代々エラポスの守護者として絶対的な権力を持っている一族で、「島の人も偽エラフィを疑うことはなかった」ことが分かった。

これを知ったエラフィさんは、ショックのあまり倒れてしまった。



【 vii 】

なんとかして、エラポスの移送を止めなければならない。

しかし、島の組合長はどこにいてどんな人物か！？

困り果てるレンジャー隊…

すると、作戦本部に、またしても「謎の手紙」が投げ込まれた！

『オマエタチヲ タスケテヨロウ クミアイチョウニ ツウジル ナゾヲトイテミヨ』

どうやら組合長につながる暗号のようだが… 信用できるものか分からない。

分団長はくやしそうに言った。

「もう時間がない！この暗号を信じるしかない！」



【 viii 】

翌朝、組合長を探しに街へ。

急がないと時間がない！



【 ix 】

やっとのことで組合長までたどりついたレンジャー隊であったが、  
組合長はレンジャー隊を信じてくれない。

組合長は言う。「エラフィさんの使者というならば、この問題が解けるはずだ！」



【 エピローグ 】

エラフィは晴れ晴れとした気持ちだった。

無事、おじいさんの遺言だったエラポスは守られた。エラポスや自分を脅かすスパイも捕まった。

と、その時、ホビット団本部からメールが！

「スパイの自白により、小隊長の居場所が分かった。無事、確保。小隊長、非常かつ異常に元気。」

そのメールを読んだ分隊長も安堵の表情を浮かべた。これで、ホビット団を揺るがす大事件も一件落着だ。

しかし、一つだけ謎が残る…

『私たちを助けてくれていたのは、一体何者??』



そこへ突然インターポールが現れた！

「おい！おまえら！ ゴブリーニに協力してるんじゃないだろうな！！」

「今回、この島でゴブリーニ一味が、またもお宝を狙っているとの情報が入っていたのだ！ あいつらを見てないか！？」

「見つけたら報告しろよ！」

足早に去っていくインターポール。

ひょっとして、助けてくれていたのは…??

ホビット団の挑戦Ⅱ～エラポスの涙～**Fin** 完結